

(様式1)

県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取県立智頭農林高等学校

重点項目	地域を支える専門人材育成	提出日	令和4年4月27日
------	--------------	-----	-----------

1 学校目標
<p>【教育目標】</p> <p>『地域産業及び社会の発展に貢献できる人材の育成』</p> <p>～ 一人一人の生徒を大切にしたい教育の実践 ～</p> <p>【令和4年度の重点目標】</p> <p>(1) 専門教育の充実</p> <p>(2) 学力向上</p> <p>(3) キャリア教育の推進</p> <p>(4) こころの教育の充実</p> <p>(5) 地域連携の充実</p> <p>(6) 情報発信の充実</p>
2 重点項目に係る目標
<p>(1) 地域の産業界や教育機関等と幅広く連携し、将来社会で求められる多様な知識・技術を習得させるとともに、専門的な資質・能力を獲得させる。専門教育の基礎・基本を徹底し、生徒自身が学習や体験をとおして意識改革を図り、さらなる学習、資格取得に向かう意欲の向上と人材育成を目指す。</p> <p>(2) 6次産業化など地域の担い手としての意識や自覚を育み、地域に貢献する人材を育成する。あわせて、多くの専門教科において学校と地域産業の連携を一層密にすることで、専門教育の深化と魅力拡大を図ると共に、本校の教育内容に合致した教育の充実を目指す。</p> <p>(3) 地域や中学校に対し、本校の特色、専門性の広報を広く行い、本校の学習内容への興味・関心の喚起を図る。</p> <p><数値目標></p> <p>(1) 本校の教育内容と関連した各種事業所等への就職者および専門性を活かした進学者の割合が30%または10名を超えるよう維持する。</p> <p>(令和3年度実績 46% 19名)</p> <p>(令和2年度実績 29% 11名)</p> <p>(令和元年度実績 27% 10名)</p> <p>(2) 各学科における教育内容と関連した職業資格の合格率を上昇させる。</p> <p>(令和3年度実績 56% 72/183名)</p> <p>(令和2年度実績 48% 40/99名)</p> <p>(令和元年度実績 80% 42/52名)</p>

3 事業計画（事業名、事業概要）

【独自事業】

[森林科学科]

(1) 森林実習

ア 事業のねらい

学校の授業、実習では体験できない自然野外活動体験や高性能林業機械の操作体験、伐倒実習等を実施することにより、専門教科に関する幅広い知識や技術を学ぶことができ、興味や関心を持たせるとともに実践力を高めることができる。

イ 事業内容

森林科学科の生徒が、森林組合や林業事業体と連携し、社会人講師の指導のもと伐倒実習、作業道敷設実習等を実施する。

ウ 具体的な事業内容

- ① とっとり林業技術訓練センター（グートホルツ）チェーンソー実習
（目立て、枝払い、玉切り、安全講習等：2年生対象）
- ② 学校演習林伐倒・造材実習
（立木の伐倒、造材等：2年生対象）
- ③ 学校演習林作業道敷設実習
（バックホー操作、作業道敷設等：2年生対象）
- ④ 高性能林業機械操作実習
（プロセッサ操作等：1年生、2年生対象）

(2) 森林・林業交流研究発表会への参加

ア 事業のねらい

発表会への参加及び聴講をとおして、森林・林業に関する幅広い知識を得ることができるとともに、森林・林業に深い関心や興味を持つことができ、将来、関連産業への就職や進学への契機とする。

イ 事業内容

生徒が授業「課題研究」で活動、研究した内容（「野鳥の生態調査」「棚田の保全活動」等）を近畿中国森林管理局が主催する森林・林業交流研究発表会にて発表し、日頃の学習の成果を披露する。また、様々な発表を聴講し森林・林業に関する幅広い知識を得る。

[生活環境科]

(1) 校内作庭実習

ア 事業のねらい

- ① 実践的な作庭（設計から施工まで）を行うことで、より深い専門的技術を習得させる。
- ② 校内作庭を、生徒の学習成果発表の場とする。
- ③ 造園業などの関連産業への理解を深め、将来の進路を考える一助とする。

イ 事業内容

設計から施工まで、実践的な作庭実習を行う。期間は8月から12月上旬とし、生徒が

デザインしたものの中から一つを投票で選び作庭する。完成したものは、北庭園に常設する。

(2) 地域の伝統文化の伝承（郷土料理）

ア 事業のねらい

- ① 地域の伝統文化である「柿の葉寿司」を通して、伝統食を継承する意義を理解する。
- ② 食生活に関する知識と技術を習得し、自らの食生活を見つめなおし改善する態度を養う。

イ 事業内容

智頭の伝統食である「柿の葉寿司」の歴史と調理方法を学ぶ。また、地域の食文化に触れることで伝統文化について考える。

[進路意識育成関係]

(1) 進路意識を高める取組

ア 事業のねらい

事業所パンフレットやインターネット情報では得ることのできない現場での話や就労体験活動および上級学校見学等により、3年次の進路選択、職業選択の一助、あるいは就労・進学意識を高揚させ、高校生活の目標を明確化し、一層充実したものとする。

イ 事業内容

① 2年生インターンシップ

対 象：第2学年生徒全員（3クラス）35名

期 間：5日間

目 的：実際の職業体験を通じて進路意識を高め、主体的な職業選択能力の育成を図る。

内 容：鳥取県東部地区に所在する事業所において、実際にその現場で働く体験を通じ、社会人として労働の在り方や将来の就職への興味や関心を高める。

事前指導：挨拶や敬語、その他社会常識、マナー全般なども含めた指導を事前に行う。

事後指導：「インターンシップ報告会」を開催し、体験を通して発表することで、参加生徒の成長とともに1年生のキャリア教育への意識の効用を図る。

② 地域企業から学ぶ

対 象：全校生徒

目 的：智頭町を中心に東部地区の企業紹介、その企業が求める人材についての話を聞くことで、生徒の地元産業や職業に対する理解を深め、地域産業を担う生徒の育成に資する。

内 容：3年生にとっては企業説明会、1、2年生には地元の企業理解を深めるきっかけとする。令和4年度は上級学校も含めて30社を予定。

③ 1年生進路講演会「先輩から後輩へ」

対 象：1年全員（3クラス）

目 的：本校1年生が現在取り組んでいる学習（教科・実習）活動の目的を確認し、高校生活をさらに充実したものとする。

(様式1)

内 容：近年の卒業生を本校へ招き、「高校時代」をいかに過ごすべきかについて語っていただく。

④ 1年生上級学校等見学会

対 象：1年全員（3クラス）

目 的：実際に見学することで、より専門的な学習を行う上級学校等の魅力を発見し、1年生から進学に向けての取り組みを行う意識を高める。

内 容：各科の学習内容を深化させた学習ができる上級学校等の見学
ふるさと創造科…鳥取県立農業大学校、鳥取短期大学
森林科学科 …鳥取短期大学 鳥取県立産業人材育成センター
生活環境科 …鳥取短期大学 鳥取県立産業人材育成センター

(2) デュアルシステムの実践に向けた取組

ア 事業のねらい

専門に関する一貫的、総合的な知識、技術を習得させるとともに、現場を合理的に理解して、実践的な態度と技術を身につけ、「スペシャリストとして地域に貢献できる人材」を育成する。あわせて、コミュニケーション能力を高める。

イ 事業内容

関連企業（森林組合、木工所等）で、夏季休業中に就業体験を行う。また、事業の終了後に報告会を開催し、次年度に向け成果や課題を明らかにする。

※枚数任意